

整形外科：骨折・脱臼

43-084 脊椎圧迫骨折の好発部位はどれか。

2つ選べ。

1. 第5頸椎
2. 第3胸椎
3. 第12胸椎
4. 第1腰椎
5. 第5腰椎

44-077 骨折について正しいのはどれか。

2つ選べ。

1. 回旋変形は自然矯正されやすい。
2. 小児では Colles 骨折の頻度が高い。
3. 上腕骨近位端骨折は高齢者に多い。
4. 癌の骨転移では疲労骨折が生じやすい。
5. 脂肪塞栓は大腿骨骨折後に起こりやすい。

45-A-086 骨折と合併しやすい神経麻痺との組合せで正しいのはどれか。

1. 上腕骨骨幹部骨折—腋窩神経麻痺
2. 上腕骨顆上骨折—正中神経麻痺
3. 橈骨遠位端骨折—橈骨神経麻痺
4. 大腿骨骨幹部骨折—大腿神経麻痺
5. 脛骨骨幹部骨折—脛骨神経麻痺

45-P-086 骨壊死を起こしやすいのはどれか。

1. 上腕骨外科頸骨折
2. 肘頭骨折
3. 中手骨骨折
4. 大腿骨頸部内側骨折
5. 踵骨骨折

46-A-083 前方脱臼よりも後方脱臼の頻度が高いのはどれか。2つ選べ。

1. 顎関節
2. 環軸椎関節
3. 肩関節
4. 肘関節
5. 股関節

47-A-052 骨折部の血流が障害されやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 脛骨粗面
2. 大腿骨頭
3. 坐骨結節
4. 手の舟状骨
5. 上腕骨大結節

47-A-087 成人と比べ、小児の骨折で多いのはどれか。2つ選べ。

1. 偽関節
2. 過成長
3. 若木骨折
4. 関節拘縮
5. 角状変形の遺残

48-P-087 小児に多い骨折はどれか。

1. 上腕骨近位端骨折
2. 上腕骨顆上骨折
3. 腰椎圧迫骨折
4. 大腿骨頸部骨折
5. 脛骨骨幹部骨折

49-P-087 骨折の名称と部位の組合せで正しいのはどれか。

1. Barton 骨折——尺骨遠位端
2. Bennett 骨折——第2中手骨基部
3. Colles 骨折——上腕骨骨幹部
4. Monteggia 骨折——橈骨骨幹部
5. Smith 骨折——橈骨遠位端

50-A-090 骨折後に偽関節を生じやすいのはどれか。

1. 手の舟状骨
2. 鎖骨遠位部
3. 橈骨遠位部
4. 中手骨骨幹部
5. 上腕骨近位部

50-P-090 骨折の名称と部位の組合せで正しいのはどれか。

1. Monteggia 骨折——上腕骨
2. Cotton 骨折——橈骨
3. Malgaigne 骨折——骨盤
4. Jefferson 骨折——大腿骨
5. Bennett 骨折——脛骨

52-P-085 上腕骨顆上骨折で正しいのはどれか。

1. 老年期に多い。
2. 原則として手術を行う。
3. 外反肘を生じることが多い。
4. 前腕の循環不全を生じやすい。
5. 肘関節屈曲位での受傷が多い。

54-A-088 骨折の名称と部位との組合せで正しいのはどれか。

1. Bennett 骨折——脛骨
2. Duverney 骨折——橈骨
3. Jefferson 骨折——大腿骨
4. Malgaigne 骨折——骨盤
5. Smith 骨折——上腕骨

54-P-087 外傷による骨折で、通常、完全骨折となるのはどれか。

1. 亀裂骨折
2. 若木骨折
3. 竹節骨折
4. 圧迫骨折
5. 剝離骨折

整形外科：変形性関節症

46-A-086 変形性膝関節症で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 二次性が多い。
2. 女性よりも男性に好発する。
3. 外反変形を生じやすい。
4. 運動開始時に疼痛がある。
5. 大腿四頭筋の萎縮を認める。

46-P-075 変形性関節症の病理学的変化はどれか。

1. 関節軟骨の破壊
2. アミロイドの沈着
3. 尿酸塩結晶の沈着
4. ピロリン酸カルシウムの沈着
5. Langhans (ラングハンス) 巨細胞の出現

48-A-088 変形性膝関節症で正しいのはどれか。

1. 外側型が多い。
2. 歩き始めは痛くない。
3. 女性よりも男性に多い。
4. 膝周囲筋の筋力強化は症状を改善させる。
5. 内側型には内側が高い楔状足底板が用いられる。

50-A-089 変形性関節症について正しいのはどれか。

1. 若年者に好発する。
2. 滑膜炎から軟骨の変性に至る。
3. 股関節では二次性関節症が多い。
4. 膝関節では女性に比べ男性の有病率が高い。
5. 発症要因として遺伝的素因は認められない。

52-A-086 変形性膝関節症について正しいのはどれか。

1. 男性に多い。
2. 膝関節液は混濁している。
3. 内側楔状足底板が有用な場合が多い。
4. 初期の疼痛は動作開始時に出現しやすい。
5. エックス線像では外側関節裂隙が狭小化している場合が多い。

53-P-086 変形性膝関節症の進行に伴う関節構成体の変化で正しいのはどれか。

1. 滑膜の肥厚
2. 骨嚢胞の消失
3. 軟骨下骨の肥厚
4. 関節裂隙の拡大
5. 関節靭帯の緊張

整形外科：骨粗鬆症

46-A-087 原発性骨粗鬆症について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 男性に多い。
2. 海綿骨の減少を伴う。
3. 喫煙は危険因子である。
4. 低カルシウム血症を伴う。
5. 骨折好発部位は尺骨である。

54-P-089 続発性骨粗鬆症発症の危険因子はどれか。

1. 肥満
2. 副腎不全
3. 関節リウマチ
4. 甲状腺機能低下
5. 副甲状腺機能低下

整形外科：骨端症・骨壊死

43-049 特発性骨壊死を起こしやすい部位はどれか。2つ選べ。

1. 橈骨頭
2. 手の舟状骨
3. 大腿骨頭
4. 大腿骨内側顆
5. 腓骨頭

44-075 女児に多い骨端症の罹患部位はどれか。

1. 大腿骨骨頭
2. 脛骨粗面
3. 踵骨
4. 足の舟状骨
5. 第2中足骨

45-P-087 Osgood-Schlatter 病で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 運動時痛がある。
2. 女児の罹患率が高い。
3. 大腿骨顆部に圧痛がある。
4. 大腿四頭筋筋膜に部分断裂を生じる。
5. 骨端線の閉鎖以降に症状は消失しやすい。

48-P-077 骨端症と発生部位についての組合せで正しいのはどれか。

1. Osgood-Schlatter 病——大腿骨頭
2. 第1Kohler 病——踵骨
3. Kienbock 病——月状骨
4. Perthes 病——脛骨粗面
5. Sever 病——足舟状骨

52-P-086 特発性大腿骨骨頭壊死症について正しいのはどれか。

1. 小児に多い。
2. 手術適応例は少ない。
3. 両側性病変は稀である。
4. ステロイド薬使用者に多い。
5. 股関節内外旋可動域は保たれる。

整形外科：末梢神経損傷

44-049 有髄末梢神経切断後の変性について正しいのはどれか。

1. 切断部から末梢側の軸索の興奮性は切断 4 週後まで保たれる。
2. 切断部から末梢側の軸索の変性は最末端から中枢側へ進行する。
3. Schwann 細胞の変性は切断部位に局限して生じる。
4. 切断部から中枢側への逆行性変性が出現する。
5. 変性後に再生する軸索に Schwann 細胞は付着しない。

44-081 肘部管症候群で筋力低下をきたすのはどれか。

1. 短母指外転筋
2. 長母指伸筋
3. 長母指屈筋
4. 母指対立筋
5. 母指内転筋

44-089 末梢神経とその損傷による症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 長胸神経——翼状肩甲
2. 後骨間神経——手指 MP 関節伸展の筋力低下
3. 大腿神経——股関節伸展の筋力低下
4. 総腓骨神経——下垂足
5. 閉鎖神経——股関節内転筋筋力低下

45-P-92 胸郭出口症候群の成因に関係するのはどれか。2 つ選べ。

1. 胸 骨
2. 鎖 骨
3. 上腕骨
4. 第 1 肋骨
5. 第 1 胸椎

46-A-068 末梢神経損傷で予後が最も良いのはどれか。

1. Waller (ワラー) 変性
2. 放射線ニューロパチー
3. neurotmesis (ニューロトメーシス)
4. axonotmesis (アクソノトメーシス)
5. neurapraxia (ニューラプラキシア)

46-A-090 肘部管症候群の症状で正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 猿手変形
2. 鉤爪手変形
3. ボタン穴変形
4. Tinel 徴候
5. 前腕近位尺側の感覚障害

46-P-089 分娩麻痺で正しいのはどれか。

1. 低出生体重児に多い。
2. 下位型は頸部が伸展されて起こる。
3. 頭位分娩による上位型の予後は良い。
4. 頭位分娩では上位型よりも下位型が多い。
5. 両側例は骨盤位分娩よりも頭位分娩に多い。

47-A-086 尺骨神経麻痺でみられるのはどれか。

1. Kernig 徴候
2. Lasègue 徴候
3. Froment 徴候
4. Lhermitte 徴候
5. McMurray 徴候

48-P-089 絞扼性神経障害と障害される神経の組合せで正しいのはどれか。

1. 肘部管症候群——橈骨神経
2. 円回内筋症候群——尺骨神経
3. 手根管症候群——正中神経
4. 梨状筋症候群——外側大腿皮神経
5. 足根管症候群——総腓骨神経

49-A-091 絞扼性神経障害と症状・検査の組合せで正しいのはどれか。

1. 斜角筋症候群——Wright テスト
2. 肘部管症候群——Spurling テスト
3. 前骨間神経麻痺——Froment 徴候
4. 後骨間神経麻痺——Finkelstein テスト
5. 手根管症候群——Phalen テスト

49-P-088 絞扼性神経障害と神経の組合せで正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 梨状筋症候群 ——坐骨神経
2. 肘部管症候群——正中神経
3. Guyon 管症候群——尺骨神経
4. 円回内筋症候群——尺骨神経
5. Hunter 管症候群——大腿神経

53-P-090 神経麻痺と起こり得る症状の組合せで正しいのはどれか。

1. 腋窩神経麻痺——下垂指
2. 肩甲上神経麻痺——phalen 徴候
3. 前骨間神経麻痺——涙滴徴候
4. 大腿神経麻痺——下垂足
5. 副神経麻痺——翼状肩甲

54-A-083 絞扼性神経障害における障害部位と症候の組合せで正しいのはどれか。

1. 手根管——下垂手
2. 足根管——足背の異常感覚
3. 梨状筋——下腿内側の異常感覚
4. 肘部管——涙滴徴候
5. 腓骨頭——下垂足

整形外科：膝関節疾患

43-078 膝くずれ(giving-way)の原因となりやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 腸脛靭帯炎
2. 反復性膝蓋骨脱臼
3. 前十字靭帯損傷
4. 内側側副靭帯損傷
5. 有痛性分裂膝蓋骨

45-P-085 膝関節疾患の症状とその説明との組合せで誤っているのはどれか。

1. キャッチング—運動時に膝に引っかかりを感じる。
2. 膝くずれ—荷重時に膝がガクッと折れそうになる。
3. ロッキング—膝が一定の角度で屈伸不能になる。
4. 伸展不全—自動的な完全伸展が不能となる。
5. 弾発現象—膝の中でもものが動く感じがする。

47-P-085 膝関節前十字靭帯損傷の検査はどれか。2つ選べ。

1. Apley テスト
2. Lachman テスト
3. 内反ストレステスト
4. 前方引き出しテスト
5. 後方引き出しテスト

整形外科：椎間板ヘルニア

46-P-086 腰椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 椎間板の前側方突出が多い。
2. 第3・4腰椎間で最も多く発症する。
3. 第3・4腰椎間で生じると膝蓋腱反射が亢進する。
4. 第4・5腰椎間で生じると下腿三頭筋の筋力低下を認める。
5. 第5腰椎・第1仙椎間で生じるとアキレス腱反射が低下する。

47-P-087 腰椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 女性に多く発症する。
2. 好発年齢は50歳代である。
3. 第4・5腰椎間で生じると前脛骨筋の筋力が低下する。
4. 第5腰椎・第1仙椎間で生じると足背の感覚障害が起こる。
5. 第3・4腰椎間で生じると大腿神経伸展テストが陽性となる。

48-A-085 腰部MRIを別に示す。この画像で認められるのはどれか。

1. 骨粗鬆症
2. 腰椎圧迫骨折
3. 腰椎すべり症
4. 後縦靭帯骨化症
5. 椎間板ヘルニア



50-P-091 頸椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 女性に多く発症する。
2. 60～70代に好発する。
3. 下肢症状より上肢症状で始まることが多い。
4. C6、7間の外側型ヘルニアでは腕橈骨筋反射が亢進する。
5. 座位で両肩関節を過外転すると橈骨動脈の拍動が減弱する。

整形外科：脊椎疾患

39-097 腰部脊柱管狭窄症の症状として特徴的なのはどれか。

1. 間欠性跛行
2. 腱反射亢進
3. 凹足
4. 足底潰瘍
5. 起立性低血圧

44-080 CT を示す。この症例でみられるのはどれか。2つ選べ。



(矢状断)



(水平断)

1. 筋線維束攣縮
2. 上腕三頭筋反射の低下
3. Hoffmann 反射陽性
4. Babinski 反射陽性
5. 舌の萎縮

45-A-088 強直性脊椎炎で正しいのはどれか。

1. 20歳代の女性に好発する。
2. 急性発作で発病する。
3. 血沈は正常である。
4. 虹彩毛様体炎を伴う。
5. 四肢の関節は障害されない。

48-P-088 腰部脊柱管狭窄症でみられるのはどれか。

1. Trendelenburg 徴候
2. 下肢の腱反射亢進
3. 腰椎前弯増強
4. 間欠性跛行
5. 槌趾変形

51-A-093 頸椎後縦靱帯骨化症の症候で正しいのはどれか。

1. 鉛管様固縮
2. 間欠性跛行
3. 膀胱直腸障害
4. 下肢腱反射消失
5. Wright テスト陽性

52-A-087 第4腰椎すべり症の症候として誤っているのはどれか。

1. 頻尿
2. 下肢痛
3. 痙性歩行
4. 間欠性跛行
5. 会陰部の熱感

整形外科：脊髄損傷

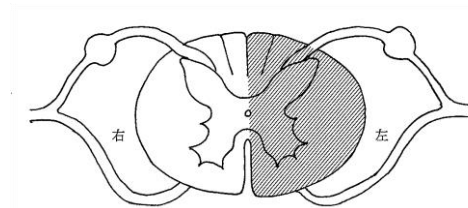
45-P-089 中心性頸髄損傷の特徴はどれか。

1. 20歳代に多い。
2. 大きな外力によって生じる。
3. 頸堆の脱臼骨折を伴う。
4. 知覚麻痺は重度である。
5. 下肢よりも上肢の運動障害が著しい。

46-A-082 頸髄完全損傷の機能残存レベルと課題との組合せで誤っているのはどれか。

1. C4———電動車椅子の操作
2. C5———ベッドへの横移乗
3. C6———長便座への移乗
4. C7———自動車への車椅子の積み込み
5. C8———高床浴槽への出入り

46-P-088 第5胸髄レベルの脊髄横断面の模式図に損傷部位を斜線で示す。右下肢にみられる症状はどれか。



1. 運動麻痺
2. 痛覚鈍麻
3. 位置覚異常
4. 振動覚低下
5. 腱反射亢進

47-P-063 脊髄後索の損傷によって生じるのはどれか。2つ選べ。

1. 部位覚障害
2. 位置覚障害
3. 温痛覚解離
4. 振動覚障害
5. Babinski 徴候

49-P-083 頸髄損傷患者でみられる脊髄ショック期の徴候はどれか。

1. 温痛覚解離
2. 腱反射亢進
3. 痙性四肢麻痺
4. 自律神経過反射
5. 肛門括約筋反射消失

50-A-083 脊髄損傷の感覚障害について正しいのはどれか。

1. 馬尾神経症候群ではみられない。
2. 中心性頸髄損傷では上肢より下肢に強い。
3. 脊髄円錐症候群では肛門周囲が障害される。
4. 前脊髄動脈症候群では位置覚が障害される。
5. Brown-Séquard 症候群では病巣の反対側の位置覚が障害される。

52-A-082 中心性脊髄損傷について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 高齢者に多い。
2. 骨傷に伴って生じることが多い。
3. 頸椎の過屈曲によって発生することが多い。
4. 肛門括約筋の収縮が障害されることが多い。
5. 下肢より上肢機能が強く障害されることが多い。

52-P-082 脊髄損傷の自律神経過反射でみられるのはどれか。2つ選べ。

1. 頻脈
2. 高血圧
3. 低血糖
4. 顔面紅潮
5. 損傷レベルより下の発汗

53-A-083 脊髄ショック期の徴候として正しいのはどれか。

1. 温痛覚解離
2. 痙性四肢麻痺
3. 肛門括約筋反射消失
4. 深部腱反射亢進
5. 排尿反射亢進

53-A-084 脊髄損傷の機能残存レベルと可能な動作の組合せで正しいのはどれか。

1. C4——万能カフを用いた食事
2. C5——前方移乗
3. C6——撓側 - 手掌握り
4. C7——更衣
5. C8——長下肢装具での歩行

54-A-082 ASIA の評価法における脊髄の髄節とその key muscle の組合せで正しいのはどれか。

1. C6——上腕二頭筋
2. C8——上腕三頭筋
3. T1——小指外転筋
4. L1——大腿四頭筋
5. L5——前脛骨筋

54-P-082 ASIA の評価法における脊髄の髄節とその感覚支配領域検査ポイントの組合せで正しいのはどれか。

1. C5——鎖骨上窩
2. T7——臍
3. T12——鼠径靭帯の中点
4. L5——足関節内果
5. S4——膝窩

整形外科：関節リウマチ

42-073 関節リウマチで障害されにくいのはどれか。

1. 環軸関節
2. 肘関節
3. 遠位指節間関節
4. 膝関節
5. 手関節

45-P-088 関節リウマチでみられないのはどれか。

1. 関節の亜脱臼
2. 腱鞘滑膜炎
3. 関節軟骨の破壊
4. 関節内の結晶析出
5. 関節周囲の腱断裂

47-P-086 関節リウマチについて正しいのはどれか。

1. 股関節などの大関節に初発する。
2. 罹患関節の症状は非対称性に現れる。
3. 約半数にリウマトイド結節が認められる。
4. 血清アルカリフォスファターゼが高値となる。
5. 悪性関節リウマチでは血管炎による臓器障害が起こりやすい。

53-A-087 関節リウマチについて正しいのはどれか。

1. 股関節などの大関節に初発する。
2. 間質性肺炎を合併することが多い。
3. 罹患関節の症状は非対称性に現れる。
4. 半数以上にリウマトイド結節が認められる。
5. 血清アルカリフォスファターゼが高値となる。

整形外科：切断

42-063 切断後の幻肢で正しいのはどれか。
2つ選べ。

1. いったん出現した幻肢は消失しない。
2. 先天性四肢欠損症でも認められる。
3. 四肢末梢部ほど強く現れる。
4. 上肢切断よりも下肢切断で強く現れる。
5. 術直後義肢装着法には予防効果がある。

44-064 エックス線写真を示す。この病態の原因で最も多いのはどれか。

1. 外傷
2. 腫瘍
3. 糖尿病
4. 閉塞性血栓血管炎 (Buerger病)
5. 閉塞性動脈硬化症



46-P-085 小児の切断で正しいのはどれか。

1. 5歳児の切断では幻肢が生じる。
2. 先天性切断では一側下肢切断が最も多い。
3. 後天性切断では一側上肢切断が最も多い。
4. 上腕切断では後に脊柱側弯を生じやすい。
5. 下腿切断では後に外反膝変形を生じやすい。

48-P-084 下肢切断について正しいのはどれか。

1. 大腿標準切断では股内転拘縮を生じやすい。
2. 下腿標準切断では外反膝を生じやすい。
3. Syme切断では断端末に創を生じやすい。
4. Chopart関節離断では足内反拘縮を生じやすい。
5. Lisfranc切断では足外反変形を生じやすい。

整形外科：スポーツ疾患

44-078 コンパートメント症候群の症状で頻度が低いのはどれか。

1. 疼痛
2. 発赤
3. 腫脹
4. 運動麻痺
5. 脈拍触知不能

45-A-87 慢性的な使い過ぎで起こるスポーツ障害はどれか。

1. 頸椎捻挫
2. 肩鎖関節脱臼
3. 上前腸骨棘剥離骨折
4. 腰椎分離症
5. アキレス腱断裂

52-A-085 上腕骨外側上顆炎について正しいのはどれか。

1. 男性に多い。
2. 高齢者に多い。
3. 自発痛はない。
4. 手関節伸筋腱の付着部の炎症である。
5. 物を持ち上げる際は前腕回内位で行うようにする。

整形外科：熱傷

45-A-089 熱傷で正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. III度熱傷は真皮層までの損傷をいう。
2. 四肢関節部位は特殊部位と呼ばれる。
3. 瘢痕形成の予防として圧迫と伸張が用いられる。
4. 手の熱傷では手内筋プラスポジションとなりやすい。
5. 小児の熱傷面積を算出する場合は9の法則を用いる。

48-P-086 熱傷について正しいのはどれか。

1. I度では皮膚の発赤をきたす。
2. 浅達性II度では肥厚性瘢痕を残す。
3. III度では強い痛みがある。
4. 小児の熱傷面積の概算には9の法則が用いられる。
5. 熱傷指数はI度とII度の面積から算出する。

51-P-077 重症熱傷について誤っているのはどれか。

1. イレウスを起こしやすい。
2. 胃十二指腸潰瘍を起こしやすい。
3. 気道熱傷時は窒息の危険が高い。
4. 熱傷深度が深いほど疼痛が強い。
5. 受傷直後は循環血液量が減少する。

53-A-077 熱傷について正しいのはどれか。

1. 第I度熱傷では熱感は見られない。
2. 浅達性第II度熱傷では瘢痕を残す。
3. 深達性第II度熱傷では水疱底は発赤している。
4. 第III度熱傷では疼痛が著明である。
5. 鼻咽腔に煤が見られたときは気道熱傷が疑われる。

54-A-094 熱傷で正しいのはどれか。

1. 熱傷面積はI、II、III度すべての面積を合わせて計算する。
2. I度熱傷では水疱がみられる。
3. 浅達性II度熱傷では水疱底は蒼白である。
4. 深達性II度熱傷では疼痛がみられる。
5. III度熱傷では創底から上皮化が起こる。

整形外科：その他

46-A-076 急性炎症が主な病態であるのはどれか。

1. 肩関節周囲炎
2. 痛風性関節炎
3. 結核性膝関節炎
4. 肘離断性骨軟骨炎
5. 上腕骨外側上顆炎

48-P-083 肩手症候群で正しいのはどれか。

1. 初期は疼痛を伴わない。
2. 末期に手指腫脹がみられる。
3. 初期に皮膚紅潮がみられる。
4. 慢性期の温熱療法は禁忌である。
5. 複合性局所疼痛症候群（CRPS）II型である。

49-P-086 女兒に多いのはどれか。

1. Perthes病
2. 先天性内反足
3. 大腿骨頭すべり症
4. Osgood-Schlatter病
5. 発育性股関節形成不全

49-A-087 足関節靭帯損傷で最も頻度が高いのはどれか。

1. 三角靭帯
2. 踵腓靭帯
3. 前距腓靭帯
4. 後距腓靭帯
5. 前脛腓靭帯

49-A-088 膝関節血腫を生じやすいのはどれか。

1. 偽痛風
2. 血友病
3. 滑膜ヒダ障害
4. ジャンパー膝
5. 変形性膝関節症

51-P-087 CRPS(複合性局所疼痛症候群)に関連するのはどれか。

1. Dupuytren 拘縮
2. Volkmann 拘縮
3. Sudeck 骨萎縮
4. 無腐性壊死
5. 異所性骨化

51-P-092 中枢神経発生に伴う先天奇形とその特徴の組合せで正しいのはどれか。

1. 滑脳症———脳溝増加
2. 全前脳胞症——顔面外側の欠損
3. 二分脊椎———水頭症合併
4. Arnold-Chiari 奇形———脊髓の頭蓋内嵌入
5. Dandy-Walker 症候群——後頭蓋縮小